

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高見 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、英語)の結果

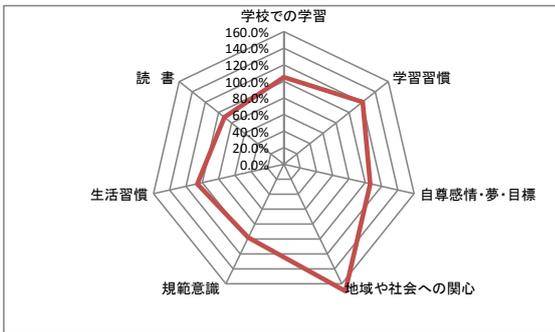
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	どの問題も概ね全国平均を上回っているが、書く能力を問う問題や記述式の問題で無回答が出ていることから、書くこと全般に苦手意識を持つ生徒がいることが課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	言語に関する知識・理解・技能を問う問題や、資料を読み取り、それを根拠として自分の考えを書く問題ができています。	
	努力が必要な問題	文章全体を読んだ上で、複数の情報を的確に捉える問題に課題が見られる。	
数学	全体的な傾向や特徴など	全ての領域で全国平均を上回っているが、説明問題の無回答率が高い傾向がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができています。	
	努力が必要な問題	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題に課題が見られる。	
英語	全体的な傾向や特徴など	英語を聞いたり、読んだりして情報をつかみ、正しい答を選択する能力は高い。自分の考えを自分の言葉で伝えることに課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができています。	
	努力が必要な問題	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取る問題に課題が見られる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会への関心において、今住んでいる地域の行事に参加している割合が全国平均よりかなり高く、自分の住む地域に誇りと愛着を持っている。地域社会での活動に、一層積極的な参加を図ってきたい。 ・「自分にはよいところがある」と思っている生徒の割合が全国平均より高く、自己肯定感の高い生徒が多い。今後とも、この傾向を続けていくためにも、学校・家庭・地域が連携した取組を継続していくことが必要である。 ・将来の夢や目標をもっている生徒が多く、夢の実現を図るためにキャリア教育を推進し、具体的な目標設定や進路選択に結び付ける。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・日々の授業で、本時の学習の「めあて」と「まとめ」を板書で示す等、学習の「ねらい」を明確にする。授業の終わりに、本時の学習内容を振り返る活動を設定し、授業の学習内容の確実な定着を図り、生徒が「わかる授業」づくりの継続的な取り組みを推進していく。また、タブレットPC等のICT機器を活用した授業を実践し、生徒の学力向上のための一助とする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の時間を確保するために、課題(宿題)の内容や量について各教科で共通理解を図るとともに、家庭学習の方法等について、生活ノート等を活用して担任が点検・指導を行う。また、調査の結果から明らかになった生活習慣等についての課題や改善に向けた取組等を保護者へ周知し、学校と家庭が連携・協力して学力向上と進路の実現に向けて取り組めるようにする。